

2016年度 事業報告

特定非営利活動法人

コミュニティ・サポートセンター神戸

2016年度 活動報告 総括

CS神戸設立20年の周年事業として重点的に取り組んだ情報発信にかかる二つの事業は、続く10年の発展を予見する象徴的な活動でした。一つ目は、これまでの活動を通じて見出した価値や成果を出版物「希望につながるコミュニティ」に集約出来たこと、二つ目は、それらを共有する場として記念パーティを開催し、200名を超えるステークホルダー（利害関係者）のみなさんと確認し合えたことです。

「様々な市民が居場所と役割を持ち、自立と共生に基づいた人材が養成され、地域に必要な事業を生み出し、最期まで暮らせる地域社会を創出する」自ら掲げた地域ビジョンを、地域密着型中間支援組織という装置を駆使し、実現に向けた道筋をより鮮明にし、次の活動につなげられたことは、意味ある節目の年度であったと総括できます。

<2016年度の1年間に、このような新しい仲間を迎えました>

	2016年度	前年比	2015年度	前年比	2014年度
新規相談者	827名	92%	902名	95%	948名
講座数	126本	139%	91本	107%	85本
講座受講生	3,128名	110%	2,820名	108%	2,604名
立上げ団体	55団体	102%	54団体	112%	48団体
新規活動者	778名	103%	754名	103%	730名

1、基本方向と4つの重点はほぼ達成

(1) 情報発信

20年誌「希望につながるコミュニティ」は予定通り12月に発刊し、すでに755部（1200部刷）が配布ないし購入され、これまでの地域活動の成果・学び・課題を内外に発信することができました。

又とかく内向き傾向が否めないCS神戸にあって、記念パーティといった場を設定することで多くの関係者と顔を合わせる機会の重要性も学びました。

日常的にはすべてのプロジェクトで、講座・相談等対面による情報発信に重点を置いた結果、ITによる発信については最小限にとどまることとなりました。

(2) 人材養成

本部・ワラビー・生きがい活動ステーション・まちづくりスポット神戸の相談業務を通じ、あるいは独自の講座・研修、神戸市・兵庫県等との連携講座で800名近い地域活動者をなかまに迎えられたことは大きな成果でした。既存団体に所属したり新規グループを立上げたり、地域課題への解決力に直結しています。プロジェクト同士が相互交流型の研修を行い、フォローアップの情報も密にしたことが相乗効果を生みました。

活動体を創出する一連の流れとして、相談・講座研修・グループづくり・活動の創出・助成金のオリジナルパッケージを形づくることができました。

なお、現在、新規相談者と講座受講生の合計約4000人のうち800人（約2割）の活動者を輩出していますが、今後は2割の比率を高める工夫がさらに求められます。

(3) プラットフォーム（市民と地域をつなぐ場、発信拠点）の創出

ワラビー、生きがい活動ステーション、まちづくりスポット神戸が、それぞれの地域に相応

しい支援方策を展開し、存在そのものが総合型地域の居場所になりつつあります。また、外部の中間支援とも可能な限り協働で事業をすすめ、居場所や寄付文化などテーマを絞り、新しくネットワーク型プラットフォームで事業の推進を図りました。企業との連携プラットフォームは更なる研究を要します。外部団体との連携はより大きな相乗効果を産む経験をしています。

移植については、相生市で研修というスタイルで部分的に進めることができました。

（4）体制整備と連携

変化の激しい時代に即応し、組織の新陳代謝を図る体制として、数年ぶりに事務局長を設置しましたが、人材不足のためプロジェクト業務から抜けきれずタイミングがずれ込むことになり、常に次期人材養成と並行して業務に当たる重要性を改めて認識しました。

新規事業では特段に連携を意識し、たとえば居場所サミットでは6団体と実行委員会を組むことで関心層拡大の流れを生み出しました。

2、事業推進の4つの視点からのふりかえり

（1）事業展開

事業数（総数20）で見ると、NPO支援にかかる事業が7割、まちづくりにかかる事業が3割ですが、懸案であるまちづくりにかかる自主事業の拡大には及びませんでした。指定管理者事業では駐輪場が4期目の指定を受け、障がい者と共に築いた12年間の管理スタイルが高得点で評価されました。なお、つなごう神戸はより専門性の高い中間支援団体へのバトンタッチ、ハンズオンプログラムは行政施策へと解決の場を移し、2事業を終了しました。

（2）顧客

すべてのプロジェクトにわたって利用者が低減することなく増加傾向で進捗しましたが、幅広い新規相談者の開拓には工夫の余地があります。

賛助会員の寄付金の80%（36万円）を市民活動サポート基金に充当し原資としました。

（3）財政

期中で研修事業等の新規事業獲得につき、当初予算より520万円増の8760万円の経常収益となり、300万円の収支差益を生みました。毎年のことながら下期の修正予算と決算の乖離を縮小することはできず課題を残しています。

新たな取組みとして、他のNPO中間支援とネットワーク型“タニマッチング”という寄付文化の推進を試み、NPOの財源開拓の一步を踏み出しました。

（4）個人と組織

部門会議・実務者会議・企画調整会議からなるスタッフ定例会議と理事会・総会が、少しずつ重なりながら課題・案件に応じた機能を発揮した結果、筋肉体質の組織になってきました。

組織の目標と個人の目標が共振し、やりがいやいきがいとつながるよう、部門会議と理事会の関係づくりに工夫を要します。

仕事と生活の調和実現のため、常勤スタッフには時間単位で取得できる有給休暇の運用を導入し、子育て中でも執務できる職場環境となりました。

活動報告

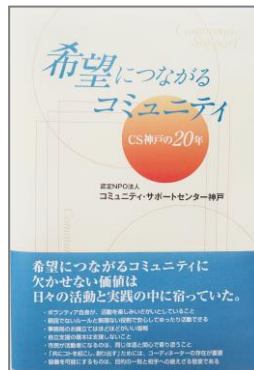
1 総務総括（補足資料 P22～24、27～29）

2016年度は認定NPO法人となってから4年度目となり、年間3,000円以上の寄付者が100名以上という要件を昨年度に引き続きクリアしました（個人113名、13団体）。組織会議としては、役員の一部新旧交代がおこなわれ、新しい体制のもと通常総会を1回、理事会を年3回それぞれ開催しました。

法人設立20周年を迎え、記念事業として過去20年間の主要プロジェクトを振り返った20年記念誌の発刊（1,200部）、会員および関係者（総勢約200名）が参加した記念パーティを12月23日（金）に開催しました。

企画調整会議や実務者会議は例年同様に月1回程度の開催、機関紙『市民フロンティア』1,000部を年間3回発行、メールニュースは700名以上に対し月1回配信しました。

2015年度にCS神戸の活動に参加したボランティアは235名の個人・団体、メディア掲載は15件、寄稿2件でした。



20年記念誌冊子

2 視察・研修（補足資料 P19）

2016年度からは、まちづくりスポット神戸でも視察・インターン受け入れを実施しました。行政、NPO、シンクタンク、学生等可能な限り受け入れ、年間件数は24件、総人数は69名となりました。（前年比較 13件増、33名減）

前年度と比較して、受け入れの件数が増加しているにもかかわらず人数が減少していますが、前年度は団体による受け入れが多く、今年度は個人（1～2名）での受入が多かったことが要因です。

3 講師・委員等派遣（補足資料 P20・21）

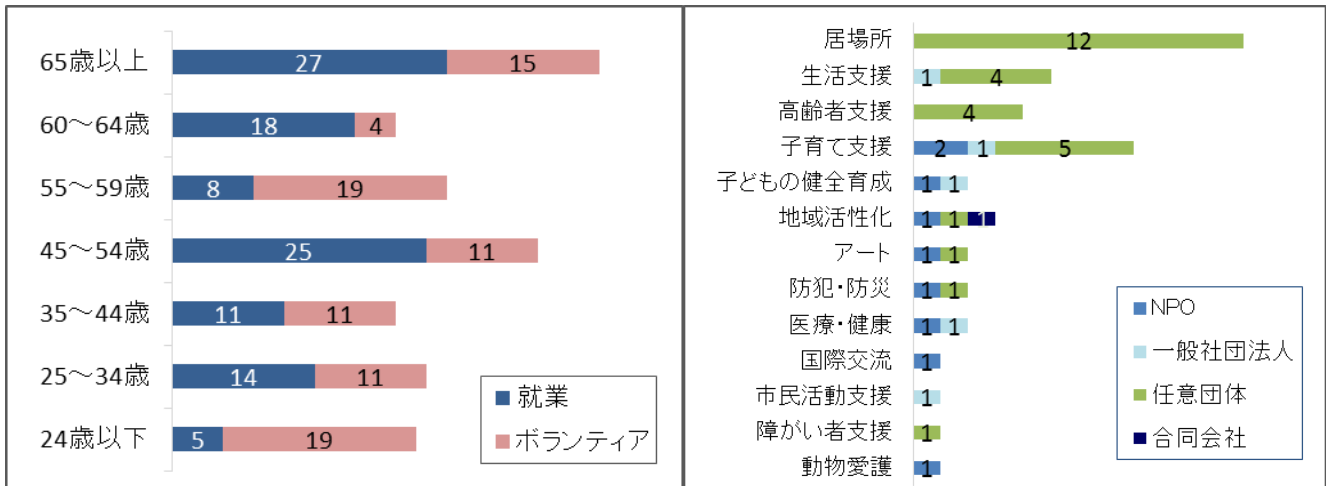
ネットワーク拡充およびスタッフのスキルアップの機会ととらえ、可能な限り依頼を受けました。その結果、講師派遣は67件・118回となりました。また委員派遣は26団体でした。

活動報告 — 市民活動支援部 —

NPO・CB支援／就業・ボランティア支援

4 生きがいごとサポートセンター神戸東（補足資料 P25）

ワラビーでは年間2,107名の方と顔を合わせての相談を行いました。起業団体は今年の大きな特徴として居場所や生活支援の団体が急増しました。就業では、昨年同様65歳以上の相談者が目立ったほか、年齢を問わずボランティア希望者も多く見られました。また、相談者のニーズに対応した講座をタイムリーに開催したことが好評でした。起業を目指す女性向けのセミナーや、定年退職者向けにNPOの事務局を担う人材となるための講座等、受講する人の顔が見える講座を企画していきました。このことにより、既存の求人からしごとを紹介するのみでなく、「はたらくをつくる」という形を提案できたことが良かったと思います。



【就業成立者数（108名）】

【起業成立数44団体（うち拡充2団体）】

5 神戸市NPO認証支援事業

2016年度のNPO法人設立のサポートは9団体(前年8団体)と前年に比べ微増でした。設立時に一般社団法人を選択する団体が3団体あり、今後もこの傾向は続くものと考えられます。一方、運営相談は99件(前年132件)となり前年比75%、一昨年比160%の件数となりました。相談内容は、NPO法人の会計書類作成・助成金の申請などに加え、昨年同様に解散の相談や事業報告・登記の相談がありました。NPO法の成立後20年近くが経過し、法人の継続・成長や解散の相談に対応することが中間支援組織の役割になってきています。

セミナーは、9月には「NPOのつくり方」、3月には「NPO会計の基礎講座&お悩み相談」を開催しました。2回合計で37名と前年(41名)とほぼ同レベルの参加者数となりました。参加者は、一定の活動を重ねてきた方から、NPO設立を構想中の方まで様々ですが、NPOへの理解者を増やすと共に将来の設立候補育成、NPO活動参加者を増やすことにつながる取り組みとして適時テーマを設定しセミナーを開催していきます。

6 コミュニティ・ビジネス インターンシップ事業

<インターンシップ事業>

サポーター養成講座修了生を中心にアテンド・クルーの立ち上げ支援のための講座(実習込み)を行い、1グループが活動を始めました。

<全県展開事業>

丹波地区の中間支援を担うNPO法人giftの後方支援として活動を行っていましたが、下半期以降giftが相談事業に対応できない状態になった

ために、相談事業の支援にも入ることになりました。また、移住・起業を目指す人向けのCB視察のバスツアーも企画し、現地で起業した人たちの取り組みや土地の風土などを学びました。



7 ハンズオン・インターンシップ事業

最終年度となった今年度は、就業困難な若者が外部の団体へ研修に行く形で実施しました（研修先：東灘こどもカフェ、まちづくりスポット神戸）。2名のインターンを受け入れ、1名の就業先が決定しました。

また、関係者で5年間の成果をまとめる「振り返りの会」を2月に開催しました。NPO 法人育て上げネットの工藤啓氏に基調講演をしてい

ただいたほか、元メンター（伴奏者）や外部研修受け入れ団体によるワークショップにより成果と課題をまとめました。制度の狭間におり、どこからも支援を受けられなかった若者を支援できたことが一番の価値であり、寄り添い型支援により8割のインターン生が次の進路に進めたことは大きな成果でした。



8 市民活動サポート基金/スマイル♥テッド基金

市民活動サポート基金では、年2回の選考委員会を経て、下記団体へ助成金を交付しました。地域のニーズに沿い、居場所や生活支援を行う団体への助成が目立ちました。前年まで同様、草の根の市民活動を支える重要な役割を担う助成金となっています。今年度の助成額は78万円となりました（累積助成はのべ133団体、総額40,236,000円）。

●市民活動サポート基金

団体名	事業名	金額
アテンド・ハッピー中央	地域でのボランティアな相互扶助活動	70,000円
本庄コミュニティ「ひだまり」	ひだまりの集い 日曜うた広場	60,000円
ひがしなだクルー	生活支援と介護サポーター	50,000円
生活支援・ピーターパン	住民主体訪問サービス	70,000円
つながる まんまるうサロン	まんまるうサロン運営	30,000円
NPO 法人ケアット	KOBE にこスプーンプロジェクト	250,000円
都市と山村をむすぶ会	都市と山村をむすぶ会の作業場新設	250,000円
合計		780,000円

9 インキュベイト事業

2015年度に引き続き、メールボックス5団体の継続利用がありました。今年度からの新しい取り組みとして、ロビーSHOPのワゴン貸し出しをおこないました。毎週火曜日・金曜日の野菜販売にあわせて東灘区自立支援協議会のマーケットチーム所属団体が希望の日程で月3~4回雑貨等の販売をおこないました。当事者が主体的に販売する事で、これまでよりも飛躍的に売上が増加しました。

研修・講座事業

10 社会貢献塾・CB実践講座

前身の研修から数えると8年目の実施となる「社会貢献塾」は20名が受講しました。前半の「スタディゼミ」は座学を中心に4日間、後半の「インターンゼミ」は地域調査やグループワークを中心に6日間、計10日間のプログラムでした。特に4日目に行った「修了生パネル」は人気が高く、居場所を始めた人、介護タクシーを始めた人、紙芝居のグループを立ち上げた人、自治会長になった人など、多様な分野でご活躍の修了生に体験談を語っていただきました。昨年度からの継続相談者を含むと、8名がNPO等にマッチング、5名が起業準備、4名

がコミュニティレストランや介護タクシー等の事業を立ち上げました。

「社会貢献塾」の上級者コースである「CB実践講座」には16名が参加、5名が起業準備に入っています。いずれのコースも受講生が昨年と比べると少なかったことが課題であり、2017年度はプログラムと開催曜日を再考し、新たな枠組みで実施する予定です。



11 地域CB支援事業



県内の生きサポ未設置地域である相生市で、商店街の活性化支援の一環として「CB起業実践講座」（10/15・10/22・11/19・12/26）を実施しました。起業を目指す参加者と共に、CBの種となる町の資源および課題調査の方法や、事業計画書の作り方等を学びました。今回の講座の大きな特徴としては、商店街の貸しスペースで講座を行ったこと、そのスペースを使って（1日限定でしたが）実際にチャレンジショップを運営したことでした。

紙と頭の中だけで考えるだけでなく、小さなものでも実際に運営してみることで、見えていなかった経費や人の動きがわかり、足りないものを知るとともに、実現できるという自信もついたようでした。

CS神戸では座学だけではなく、実践や現場での体験を重視してきましたが、この体験を経て、より「動く」ことの効果を体感した講座になりました。

新 12 居場所運営支援・地域リーダー養成講座

ひょうごボランティアプラザの助成金を得て「居場所運営支援事業」と「地域リーダー養成講座」を実施しました。「居場所運営支援事業」では、8月に「第1回居場所サミット in 神戸」を開催、参加者は222名でした。阪神間での居場所実践者10名のパネルディスカッションの後、区別に分かれて居場所マップづくりのワークショップを行い、区ごとの居場所情報を可視化しました。同時に、居場所運営の「コツ&ベからず」を出し合い、ノウハウを共有しました。またそれらの居場所の基本情報を集め、275ヶ所を掲載した「わがまち居場所 BigMap データ集 Vol.1」を450部発刊、google mapとも連動させ、ネットでも情報が閲覧できるようにしました。数回にわたって新聞に掲載され、兵庫県外からもサミットへの参加があるなど、注目を集めた事業となりました。

「地域リーダー養成講座」では起業後3年未満のNPOを対象に、3日間のマネジメント研修を実施しました。CS神戸がNPO大学事業等で活用してきた「SWOT分析」や「バランス・スコア・カード（BSC）」を中心に、マネジメントの手法やその活用方法を紹介し、「ファシリテーションの基礎」、「行政の役割と地方自治の今後」などの座学プログラムも実施しました。



ネットワーク・調査事業

13 つなごう神戸

2013年4月1日の開設以降、当法人が事務局として中心となりながら、協議会委員の協力を得てサイトの更新および改善をおこなった結果、サイトへの登録団体数443団体、個人会員308名となりました。

また、2016年度は前年度におこなったサイト利用調査の結果をふまえて、より一般市民がアクセスしやすくなるようにスマホサイトを新規開設し、減少傾向であったアクセスの回復にもつながりました。

今後はサイト運営やインターネットでの広報に知識・実績があるような事務局がふさわしいと考え、神戸市から公募があった結果、認定NPO法人しみん基金・KOB Eが新事務局として選定されました。

14 東日本大震災・熊本地震復興支援

2011年8月からさわやか福祉財団と共に大槌町をサポートしてきました。最終ゴールを助け合い住民グループの創出と、それらの活動を行政の一般施策につなげ協働体制を構築することでした。住民自助グループ「新生おおつち」の設立、つづいて地域の団体がネットワークした「支えあい大槌協議会」の組成、構成メンバーが大槌町生活支援コーディネーターに選出されるなど住民主体の体制が構築された6年弱です。ここを一旦の区切りとし今後は必要に応じ交流することとします。

また、2016年4月14日に発生した熊本地震の支援として、募金集め（総額65,507円）の実施、緊急支援物資の募集（全20箱）をおこないました。募金は全額をNPO法人ケアサービスくまもとサンアンドムーンへ寄附し、緊急支援物資を全てNPO法人地域たすけあいの会へ寄贈しました。

さらに、神戸市や他NPO団体、弁護士会等と連携を図って神戸市内の公営住宅へ転居された被災者を対象に、あらゆる差横断に対応する総合窓口を設置しました。7世帯13名からの相談・依頼を受け付け、最終的に8件の支援をおこないました。

15 各種ネットワーク事務局

4月23日にひょうご女性未来会議を開催し、118名が参加しました。『地域活動における、女性の光と影』をテーマとしたパネルディスカッションに加えて、グループ討議、参加者同士の交流会を実施しました。

2015年度より始まった昼体操事業はNPO法人アスロンが主宰となり、CS神戸は引き続きサポートすることとなりました。

さらに、CS神戸、NPO法人しみん基金・KOB E、及びNPO法人はんしん高齢者くらしの相談室の3者で2015年度に始めた「神戸助け合い基金研究会」から企画されたチャリティイベント、「寄附が、つなげるひと、育てるまち ～Tanimatching2017～」をNPO法人しみん基金・KOB E主催、CS神戸およびNPO法人はんしん高齢者くらしの相談室が共催となって2月4日（土）に実施しました。

福祉推進事業

16 介護サービス情報の外部評価・公表調査（地域密着型事業の外部評価）

小規模多機能型居宅介護事業が対象から外れたことにより、受注件数は前年度より8件少ない17件となりました。一方で年度末は事業所からの依頼が集中し、限られた評価員数での対応が難しく、結果として5件お断りしました。CS神戸の報告書は他評価機関に比べて丁寧かつ簡潔であることが好評を得ており、継続して依頼をいただく事業所が増えています。しかし、評価員の登録者数13名のうち、実際に活動できる評価員は半数以下

であり、依頼が集中する時期は対応が非常に困難となります。今後は依頼が集中しないように事業所へ働きかけるとともに、評価員の増員が課題です。

17 NPOサービスセンター

これまで「高齢者への手助け」として自宅やマンションの清掃、草取り、買い物の付添などの対応に加えて、本人や親兄弟の介護に関する相談を受けてきました。2016年12月末をもって外部へのボランティアの派遣は終了し、本年度で当事業は終了となりました。しかし、今後も増えると予測される介護相談については、引き続きCS神戸として対応をおこないます。

18 神戸市生活支援サービス基盤整備事業

2015年度の研修事業の実績を基に、神戸市の主催の「生活支援・介護予防サポーター養成研修事業」に



第4期 生活支援・介護予防サポーター養成研修 受講生

応募し、第3期の東部ブロック（東灘、灘、中央）と西部ブロック（須磨、垂水、西）および、追加で開催された第4期全市一括の研修事業を受託しました。

生活支援サポーターに必要な基礎知識を習得する講義に加え、地域活動の現場体験や活動者のパネルディスカッションにより現場の理解を深める研修を実施。3つの研修により150名の修了生を輩出しました。

また、研修後の区別サロンやフォローアップ研修において、コーディネーターが個別にフォローし、受講生の60%が地域で活動されるという成果を収めました。

2015年度に開始したアテンド・クルーは東灘区2団体、中央区1団体が立ち上がり、活動を開始しました。

活動報告 — 地域活動事業部 —

19 東灘区民センター小ホール

指定管理者として第3期（指定期間：2014年4月～2018年3月）の3年目として、施設の管理運営業務、貸館業務、地域文化活性化事業、自主事業を実施しました。芸術文化や生活文化を行なう機会と場の提供し、様々な市民が居場所と役割の持てるような区民センターなるようにスタッフ一人ひとりが企画実践して、限られたスペースと予算のなかで、チャレンジしました。また複合施設として児童館や地域福祉センターとコミュニケーションを図り、イベントに参加、協力をしました。

1. 貸館事業

貸館事業の利用件数等については以下の通りです。

	2015年度	2016年度	前年比
利用者数	41,298人	40,160人	97.2%
利用件数	2,243件	2,157件	96.2%
利用率（実利用率）	78.3%	76.2%	97.3%
（ホール）	93.9%	94.8%	101.0%
（会議室）	70.4%	60.5%	85.9%



イザ！カエルキャラバン in ひがしなだ

(和室)	70.7%	73.1%	103.4%
------	-------	-------	--------

昨年に引き続きホール以外の利用率が下がっており、通年使用の団体ではなく単発的に使用する団体に留まっているのが課題です。

2. 地域文化活性化事業

地域に住む人々の文化受入れを広げるため、地域文化の発掘・育成・支援を目指し、真の文化拠点となるように地域文化活性化事業を進めました。

- (1) 創作ダンスで身体表現を学ぶワークショップ「動物になって踊ろう！」サン＝サーンス作曲「動物の謝肉祭」を10/3に開催しました。幼児～中学生20名が挑戦し、最後は発表会もおこないました。
- (2) 「クラリネットアンサンブルをみんなで楽しく学ぼう」を5日間（11/13・26・27、12/17・18）のワークショップで実施しました。中学生や大人の方がクラリネットアンサンブル&オーケストラを体験し、楽しく学びました。
- (3) 地域を知る「東灘名所めぐり」～1Day フェスタ～知る・見る・聴く（落語で東灘名所めぐり）を3/25に開催しました。昨年に引き続きのイベントですが150名以上の方が来られました。

3. ひがしなだ区民カレッジ

昨年に引き続き3人の市民講師と7人による講座を79回実施しました。（例：「脳が目ざめるアート塾」「はじめてのペーパーキリング（細長い紙を使って作る工作）」「遺言と相続の基本」「笑いヨガ」「こころゆるりんアート臨床美術」「オリジナルマトリョーシカを作ろう」「海外年金&障がい年金セミナー」など）

4. 自主事業

- (1) 1/21に「イザ！カエルキャラバン in ひがしなだ」を実施しました。おもちゃの物々交換（かえっこ）と防災プログラムを組み合わせた防災イベントを実施し約600名の参加でした。
- (2) 3/18にワークショップ「アート×ソーシャル」を開催しました。何か面白いことが出来ないかとアートを使って活動している団体同志が交流し、地域活動とアートのつながりを模索しました。

20 JR住吉駅前駐輪場管理運営業務

1. 指定管理の更新

今年度は神戸市の指定管理第4期（指定期間2017.4～2020.3）の更新の年でしたが、評価点：86点（前回第3期は81点）、他のNPO団体の得点を上回る高得点で認定を受け新しい協定書を交わすことが出来ました。

2. スタッフの育成、職場環境改善

病気退職等の人員補充よりこの2年間の間に新たに人材が加わり、14名（平均年齢74歳）のスタッフの内の半数を占めるに至っています。新人を含めスタッフ全員の能力を引き出すために、全員が改善案を考えスタッフ会議で討議し実施に移す仕組みにしています。提案をもとに自転車転倒危険区域の防止対策、英語対応利用者案内表示、建屋・設備・看板の再点検と補修実施などをすすめました。北駐輪場天井灯全面LED化と自転車昇降機ローター補修、南事務所大型看板新設などを進め、利用者にもスタッフにも利便な環境が整いました。

年齢とスキル習熟に応じた働き方でシフトの見直しを行うと同時に、新たなリーダー体制で新人の育成に取り組んでいます。

3. 業務改善、新たなサービス

PC利用で業務効率化をさらにすすめ、PC操作マニュアルの作成などスタッフ全員がPC操作に慣れてきています。スタッフ自らが新たなPCでの資料作成を提案するようになりました。

不正使用の低減として巡回のシフト担当が釣銭を用意して声掛けがあれば販売対応するなどのサービス向上で違反が減り回収率改善がすすみました。違反累計数は前年比 4.4%減少し、回収率は 5.4%改善されました。利用者利便サービスも追加し利用者を増やしています。

違反数(件)	2016年度
違反数	13,751
対前年比	95.6%
違反回収率	75.3%
対前年比	105.4%

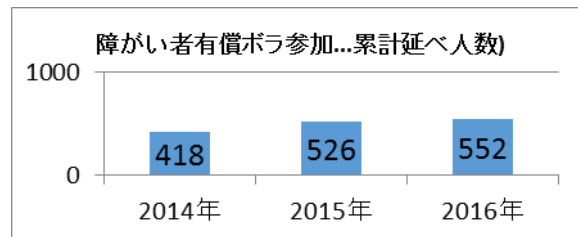
単 位：件	整気入れ	雨避けシート	道案内	置き傘
2016年(月平均)	63	8	60	3
対前年比	-19	-2	3	0

新たな取り組みとして、駐輪場指定管理責任者の情報交換の場として連絡会定期開催を神戸市に働きかけました（11/9 臨時連絡会で提案）。その後も連絡会討議テーマとし「駐輪場認知症サポーター推進活動」を提案し開催を要望していますが、市の内部調整は次年度へ繰り越しとなっています。

4. 地域貢献活動

新たな取り組みとして駐輪場認知症サポーター推進活動をはじめました。第一ステップでスタッフ全員が認知症サポーター研修を受講(8/26)、受講者オレンジリング 13 個写真でサポーター支援を看板掲示して、声掛け運動と対応記録をリストにすることを始めました。次のステップとして“あんしんすこやかセンター”への繋ぎなど具体的な役割の担い方は、“あんすこ”と相談しながら進めます。

トライやる・ウィーク学生の就労体験(11/8～11/18)近隣の施設の障害者の方と一緒に清掃活動(4/1～30、5 団体延べ 120 名、10/19～11/30 5 団体延べ 163 名)インターンシップ就労体験、「くまもん募金」の利用者へ呼び掛けなど地域貢献メニューへの参加数を増やす活動に注力しました。



21 まちづくりスポット神戸管理運営事業

今年度は、登録団体 57 団体（前年度比 8 団体増）、来館者数 17,251 名（前年度比 3,775 名増）、コミュニティー利用件数 805 件（前年度比 105 件）と増加しています。開設から 3 年半を経て、新規の利用者や遠方からの来館もあり、まちスポ神戸の認知度が高まってきたことを実感できた 1 年でした。

新規事業として取り組んだ「カレッジ音楽祭」は、企画・運営から学生が主体となって考え、実行委員会を重ね、学生の出演者数は 100 名、遠方からの一般の音楽ファンも取り込み 550 名の方が来場しました。

また、テナント会・兵庫県立大・まちスポとの連携講座として開催した「ユニクロの経営から学ぶ大学生のキャリア形成」では、起業家の生の声を聴く機会となり、三者の連携による新たな取り組みとなりました。

もう一つの新規事業として、周辺自治会、子ども会と連携した防災学習「地域とともにまなぼうさい」を開催。3 月の実施に向け、9 月から打合せを重ね、これまで交流のなかった小東山手 1 丁目と 3 丁目自治会が、これを機に「同じ地域に住む住民同士で協力しあっていこう」という機運が高まりました。当初は、受け身だった自治会や子ども会も打合せを重ねるうちに、自ら進んで役割を担い、当日は、650 名の方が来場されました。地域・企業・NPO が連携し共に防災・減災について考える貴重な機会となりました。

立ち上げ 2～3 年を経過した団体を対象とした CB マネジメント講座は、ワラビー・生きがい活動ステーションと連携し各プロジェクトで培ったノウハウを生かして実施することができました。今後も積極的にプロジェクト

間で連携することで、CS神戸ならではの、より効果的なプログラムづくりにつなげられる手ごたえがありました。

まちそだて相談では、昨年度から引き続き、介護予防カフェなどの居場所開設や生活支援事業に取り組む設立相談が増加しています。7つの居場所が誕生し、アテンドクルーによる事業所での有償ボランティアの活動がスタートしました。安心して過ごせる地域づくりという課題解決に向け、活動を始めるシニア層のサポートを重点的に取り組んだ1年でした。



22 生きがい活動ステーション運営事業

昨年度に引き続き、公益財団法人 神戸いきいき勤労財団と協働で ①情報提供・相談、②講座・サロン、③トライやるサポート、の3本柱で地域活動の担い手づくりに取り組みました。2016年度の情報提供者数は9525人で、相談件数は1822件でいずれも昨年度を上回りました。講座・サロンでは、おしゃべり茶話会の「生き活サロン」や「ボランティアはじめの一步」「アートで社会貢献!？」などテーマを決めて語り合うサロンを計39回実施、灘区周辺で活動する実践者を招いた「市民塾」を8回実施、延べ458人が参加しました。また「居場所コーディネーター養成講座」には、17名が参加し、六甲道勤労市民センター内の料理教室の空き日を利用した「まちかど食堂」の実施へ向け、立ち上げ準備に入っています。トライやるサポートの利用は19件で参加者は141名、仲間集めや講座のお試しの場として活用いただきました。

結果的に、高齢者の生活支援や児童館のイベント補助などNPOや地域活動等へのマッチングは110件、地域の居場所を中心に立ち上げは12グループとなりました。いずれも、CS神戸本部の研修やワラビーやまちスポットの日常的な連携を効果的に行うことで、高い成果につなげることができました。一方、新規相談者が微減しており、新たなニーズの開拓や広報など、次年度への課題も持ち越しました。

※生きがい活動ステーションのサポートの流れ

